

日高の軽種馬育成調教場では、昨年の夏の猛暑をのりこえた1歳馬達が騎乗馴致を終えて、9月から調教場の利用を開始しました。利用の出だしは鈍かったものの徐々に伸び、調教場では日ごとに若馬の調教が増えてきて、調教に活気を帯びている今日この頃です。これらの若馬達の今後の活躍が楽しみです。

当センター研修生の研修も残りわずかとなり、今月から最終段階となるJRA育成馬での騎乗訓練へと移行し、慣れない北海道の厳しい寒さと闘いながら、4月の卒業に向け日々訓練に励んでいます。また、次期第29期生の選考も昨年11月に終了し、期待を胸にした初々しい新人達の入講(4月)が楽しみです。(Y.H.)

「たづな」欄には昨年3月の定期異動で赴任された日本中央競馬会(JRA)馬事部生産育成対策室長の山野辺啓氏に「軽種馬流通促進を目指して」というテーマで投稿していただきました。日本産馬の資質向上の背景がある割に競走馬の生産や需要が減少しており、海外への馬輸出もあまり増加しておらず、馬流通の促進に向けた取り組みの活発化を願っています。

「調査・研究」には、競走馬の下肢皮膚炎に関する調査研究成績をJRA日高育成牧場佐藤文夫研究役に執筆していただきました。繋の裏側にできる皮膚炎として知られている繋輝(けいくん)に悩まされる馬は多く、調教しながらの治癒は難しい疾患です。原因菌をしらべ、治療および予防法について詳しく紹介されており、大変役立つ内容と思われます。シリーズで掲載している「やさしい育成技術」には、子馬の管理法で1歳セリに向けての準備のうち、馬の手入れについてJRA日高育成牧場頃末専門役に分かり易く解説していただきました。若馬の飼養管理技術の向上に役立てていただければ幸いです。

「海外の馬最新情報」では、動的な上部気道障害のより正確な診断のための内視鏡検査について紹介しました。走路騎乗運動およびトレッドミル運動中の内視鏡検査による診断精度についての評価で、軽種馬の呼吸器疾患の診断技術向上につながると思います。「馬にみられる病気」では筋組織と筋疾患について連載しており、前号に引き続いて馬にみられる各種筋疾患について解説しました。軽種馬の筋疾患の発症防止の参考になれば幸いです。(T.Y.)